

大鹿村中央構造線博物館たより 179号



2024年4月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

大鹿村で被害が想定される地震

元旦の令和6年能登半島地震以降、大鹿村にも大きな地震が来たらどうしようと不安に思われている方も多いようです。大鹿村では、近年、地震による大きな被害の報告はありませんが、今後も大地震が来ないという保証はありません。長野県は、県内で起こり得る地震について、各市町村の揺れの大きさや被害を想定し、第3次長野県地震被害想定調査報告書(*1)にまとめています。これを元に、大鹿村で被害が想定される地震とその最大震度を表にしたものが大鹿村地域防災計画(*2)に記されています(表1)。この表を見ると、南海トラフ巨大地震と、糸魚川-静岡構造線断層帯(南側)の地震では、最大震度6強となることが想定されていることがわかります。

表1 大鹿村で被害が想定される主な地震と最大震度
大鹿村地域防災計画(*2) p.13より引用

		最大震度
内陸型地震	長野盆地西縁断層帯の地震(ケース3)	3
	糸魚川-静岡構造線断層帯の地震(全体)	6弱
	糸魚川-静岡構造線断層帯の地震(北側)	3
	糸魚川-静岡構造線断層帯の地震(南側)	6強
	伊那谷断層帯(主部)の地震(ケース3)	5強
	阿寺断層帯(主部南部)の地震(ケース1)	4
	木曾山脈西縁断層帯(主部北部)の地震(ケース1)	5弱
	境峠・神谷断層帯(主部)の地震(ケース1)	4
海溝型地震	想定東海地震	6弱
	南海トラフ巨大地震(基本ケース)	6強
	南海トラフ巨大地震(陸側ケース)	6強

一般に、南海トラフ(図1参照)付近のプレート境界で発生する地震(図2参照)のことを南海トラフ地震と呼びます。南海トラフ巨大地震というのは、南海トラフ地震のうち、一度にずれ動く領域が静岡県沖から宮崎県沖までに渡り、大鹿村を含む陸域の直下までもずれ動く領域に含まれ、広範囲で大きな揺れとなる地震のことを指します。南海トラフ地震は、概ね100~150年間隔で起こっており、前回から80年程経過しているため、この文章を読んでいる皆さんが生きている間に次の南海トラフ地震に遭遇する可能性は十分あります。次の南海トラフ地震が、巨大地震となるかどうかはわかりませんが、巨大地震となった場合は、最大で震度6強となるかもしれないということになります。

糸魚川-静岡構造線断層帯(南側)の地震というのは、内陸の活断層で発生する地震(図2参照)のうち、糸魚川-静岡構造断層帯のうち南側の区間(図3参照)がずれ動くことを想定した地震です。

ここで、大鹿村を南北に伸びる大断層・中央構造線が動いた場合の揺れの大きさはどうか、疑問に思われた方もおられるのではないのでしょうか？大鹿村の中央構造線は活断層ですが、政府の地震調査研究推進本部が優先的に詳細な調査を行った114の主要活断層帯に含まれていないため、被害想定が算出されておらず、表1にも載っていません。しかしながら、地震調査研究推進本部は主要活断層帯以外の主な活断層として、「中央構造線赤石山地西縁断層帯」(図3参照)を挙げています。長野県地震被害想定調査報告書(*1)では、マグニチュード7.7の地震が発生する可能性があるとして記しています。マグニチュードがそれより小さい7.0程度でも、直上の大鹿村では震度7の強い揺れになる可能性があります。(宮崎・河本)

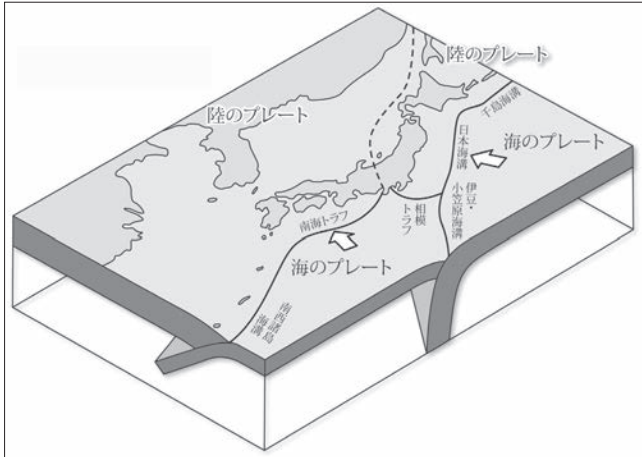


図1 日本列島周辺のプレート
地震調査研究推進本部ホームページ 地震本部の素材集より引用

図1 日本列島周辺のプレート

地震調査研究推進本部ホームページ 地震本部の素材集より引用



図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

地震調査研究推進本部ホームページ 地震本部の素材集より引用

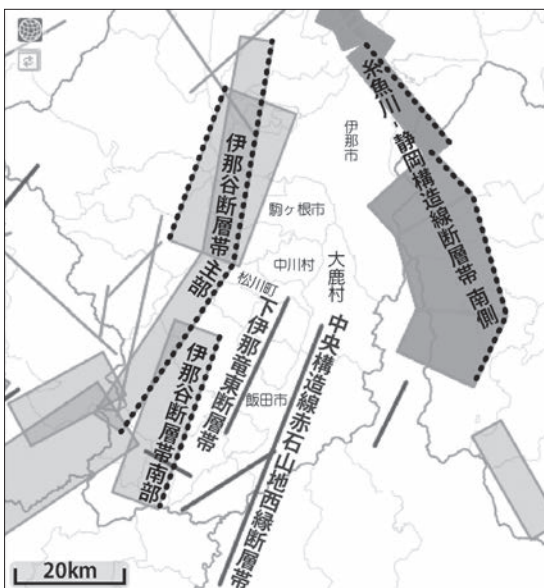


図3 大鹿村周辺の主な活断層

防災科研 地震ハザードステーション J-SHIS より作成
<https://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>

参考文献・参考Webサイト

(*1)第3次長野県地震被害想定調査報告書

<https://www.pref.nagano.lg.jp/bosai/higaisotei.html>

(*2)大鹿村防災会議(2019)「大鹿村地域防災計画」第5節 想定地震とその被害,p12-16

<http://www.vill.ooshika.nagano.jp/wp-content/uploads/2019/08/tiikibousaikeikaku-honnpenn.pdf>